

ANAホールディングス株式会社

2015年3月期 第1四半期 決算説明会

専務取締役 執行役員
殿元 清司

2014年7月30日



◎ 本日はお忙しい中、2015年3月期 第1四半期決算説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。

◎ それでは、第1四半期決算につきまして、ご説明いたします。

◎ スライドの3ページをご覧ください。

目次

2015年3月期 第1四半期 決算

業績ハイライト	P. 3
第1四半期と第2四半期の事業環境	P. 4
連結決算概要	
経営成績	P. 5
財政状態	P. 6
キャッシュフロー	P. 7
セグメント別実績	P. 8
航空事業	
収入・費用	P. 9
営業損益増減要因	P. 10
国内旅客事業	P. 11-12
国際旅客事業	P. 13-16
国内貨物事業	P. 17
国際貨物事業	P. 19-20
LCC事業	P. 21
航空事業以外のセグメント	P. 22

補足資料

燃油・為替情報	P.24
国際旅客 方面別実績(構成比)	P.25
国際貨物 方面別実績(構成比)	P.26
運用航空機数	P.27

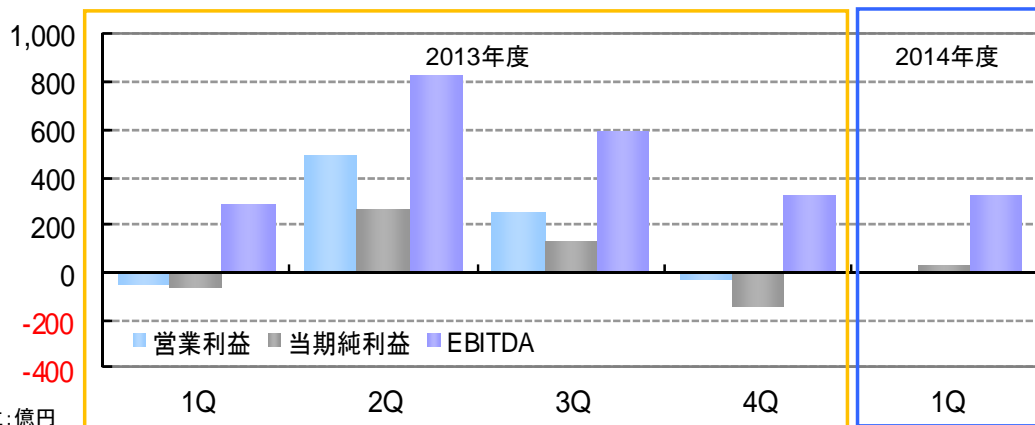
業績ハイライト

当第1四半期と前年度各四半期の業績比較

前年同期の営業損失から黒字転換

【第1四半期(連結)】

- 営業利益 : 3億円 (前年同期比 + 59億円)
- 当期純利益 : 34億円 (同 + 101億円)
- EBITDA : 327億円 (同 + 44億円)



単位: 億円
(¥100Million)

©ANAHD2014

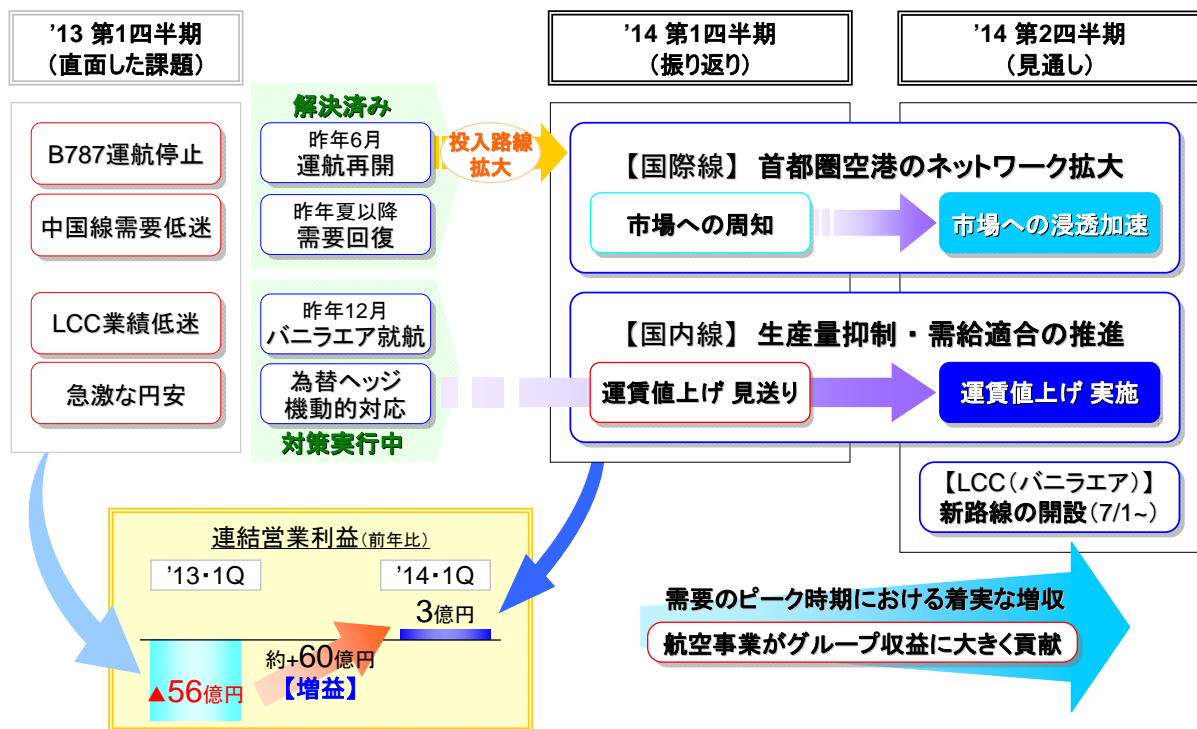
3

◎ 業績ハイライトです。

◎ 当第1四半期の営業利益は、前年同期比59億円増加の3億円、
当期純利益は、同101億円増加の34億円、
EBITDAは、同44億円増加の327億円となり、
今年度収支計画に沿った順調なスタートとなりました。

◎ 4ページをご覧ください。

第1四半期と第2四半期の事業環境(前年度との比較)



©ANAHD2014

4

◎ ここでは、第1四半期と第2四半期の事業環境について確認したいと思います。

◎ 昨年度の第1四半期は、ボーイング787の運航停止や、急激な円安など、いくつかの課題に直面しましたが、これらについては既に解決し、または対策を講じています。

その結果、当第1四半期の連結営業利益は、低需要期ながらも黒字転換し、前年同期に比べて約60億円の増益となりました。

◎ この第1四半期において、国際線では首都圏空港でのネットワーク拡大を展開し、新路線を含めて市場への周知を図り、需要の取り込みに努めました。国内線では、生産量抑制に方針転換した中で、需給適合を推進しましたが、需要のシーズンリティや消費増税の影響等を勘案して、運賃値上げについては見送りました。

◎ 第2四半期においては、国際線ネットワーク拡大の浸透が内外で加速する中で、需要のピーク時期を迎えるため、これらを確実に収入に取り込んでいく所存です。国内線では、7月から実施した運賃値上げによる増収効果を見込んでいます。LCC事業としては、7月から新たに「成田－奄美大島線」を開設しましたが、プレジャー需要や訪日需要を中心に、旅客数が増加するものと期待しています。

◎ 次に5ページをご覧ください。

連結決算概要

経営成績

単位: 億円
(¥100Million)

		前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年差 Difference
売上高	Operating Revenues	3,515	3,868	+ 352
営業費用	Operating Expenses	3,571	3,864	+ 293
営業利益	Operating Income	△ 56	3	+ 59
営業利益率	Op. Margin (%)	—	0.1	—
営業外損益	Non-Op. Gains/Losses	△ 56	△ 28	+ 27
経常利益	Recurring Income	△ 112	△ 25	+ 87
特別損益	Extraordinary Gains/Losses	18	100	+ 82
当期純利益	Net Income	△ 66	34	+ 101
少数株主損益調整前 当期純利益	Net Income Before Minority Interests	△ 79	37	+ 116
その他包括利益	Other Comprehensive Income	△ 7	48	+ 56
包括利益	Comprehensive Income	△ 86	86	+ 172

事業上の関連性の高い航空会社に対する航空機燃料の売上取引については、
当第1四半期連結会計期間より、売上高と売上原価を相殺して純額にて売上高を計上する方法に変更しています。
なお、当該会計方針の変更は、前年同期の実績についても遡及適用されています。

©ANAHD2014

5

◎ 経営成績の概要です。

◎ 売上高は、前年同期と比較して**352億円増加の3,868億円**と、
第1四半期として過去最高となりました。

◎ 一方、営業費用については**293億円増加の3,864億円**となり、
営業利益は**3億円**となりました。

◎ 経常利益は**25億円**の損失でした。

◎ 当期純利益は、
確定給付型から確定拠出型へ移行する年金制度改革の実施に伴い、
「退職給付制度改革定益」**99億円**を特別利益として計上したことによって、
前年同期比で**101億円**の増加となる**34億円**となりました。

◎ **6ページ**をご覧ください。

連結決算概要

財政状態

単位: 億円
(¥100Million)

		前年度期末 Mar 31, 2014	第1四半期末 Jun 30, 2014	前年度期末差 Difference
総資産	Assets	21,736	21,976	+ 240
自己資本	Shareholders' Equity	7,460	7,520	+ 60
自己資本比率(%)	Ratio of Shareholders' Equity (%)	34.3	34.2	△ 0.1
有利子負債残高	Interest Bearing Debts	8,347	8,572	+ 224
D/Eレシオ(倍)*	Debt/Equity Ratio (times)	1.1	1.1	+ 0.0
純有利子負債残高**	Net Interest Bearing Debts	4,616	4,730	+ 113

* オフバランスリース債務額1,134億円(前年度期末1,210億円)を含むD/Eレシオは1.3倍(前年度期末1.3倍)

** 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - (流動資産(現金及び預金 + 有価証券))

◎ 財政状態です。

◎ 総資産は、前期末より240億円増加して2兆1,976億円となりました。

◎ 自己資本は60億円増加して7,520億円となり、
自己資本比率は34.2%となりました。◎ 有利子負債は8,572億円となり、
デット・エクイティ・レシオは1.1倍となっています。

◎ 7ページをご覧ください。

連結決算概要

キャッシュフロー

単位: 億円
(¥100Million)

		前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年差 Difference
営業キャッシュフロー	Cash Flow from Operating Activities	753	490	△ 262
投資キャッシュフロー	Cash Flow from Investing Activities	695	△ 297	△ 993
財務キャッシュフロー	Cash Flow from Financing Activities	△ 494	113	+ 608
現金及び現金同等物の増減額	Net Increase or Decrease	955	305	△ 649
現金及び現金同等物の期首残高	Cash and Cash Equivalent at the beginning	1,912	2,409	} + 321 **
現金及び現金同等物の期末残高	Cash and Cash Equivalent at the end	2,868	2,730	
減価償却費	Depreciation and Amortization	339	324	△ 15
設備投資額(固定資産のみ)	Capital Expenditures	656	529	△ 127
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く)	Substantial Free Cash Flow (excluding periodic/negotiable deposits of more than 3 months)	155	△ 17	△ 172
EBITDA *	EBITDA	283	327	+ 44
EBITDAマージン(%)	EBITDA Margin (%)	8.1	8.5	+ 0.4

* EBITDA: 営業利益 + 減価償却費

** 連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物への影響額含む

©ANAHD2014

7

◎ キャッシュフローです。

◎ 営業キャッシュフローは、490億円の収入、
投資キャッシュフローは、297億円の支出、
財務キャッシュフローは、113億円の収入となりました。

◎ なお、投資キャッシュフローから、
3ヶ月超の定期・譲渡性預金の資金移動を除いた場合の
実質フリーキャッシュフローは、下から3段目の記載通り、
マイナス17億円となっています。

◎ 8ページをご覧ください。

連結決算概要

セグメント別実績

単位: 億円
(¥100Million)

		前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年差 Difference	
売上高 Revenues	航空事業	Air Transportation	3,055	3,351	+296
	航空関連事業	Airline Related	457	536	+78
	旅行事業	Travel Services	363	367	+3
	商社事業	Trade and Retail	264	300	+35
	報告セグメント計	Total for Reporting Segments	4,141	4,555	+413
	その他	Others	70	75	+5
	調整額	Adjustment	△ 696	△ 762	△ 66
	合計(連結)	Total	3,515	3,868	+352
営業利益 Operating Income	航空事業	Air Transportation	△ 65	△ 11	+ 53
	航空関連事業	Airline Related	12	27	+ 15
	旅行事業	Travel Services	6	7	+ 1
	商社事業	Trade and Retail	7	5	△ 2
	報告セグメント計	Total for Reporting Segments	△ 39	28	+ 68
	その他	Others	1	1	+ 0
	調整額	Adjustment	△ 17	△ 27	△ 9
	合計(連結)	Total	△ 56	3	+ 59

©ANAHD2014

事業上の関連性の高い航空会社に対する航空機燃料の売上取引については、P5脚注の通り、会計方針の変更が適用されています。

8

◎ セグメント別の実績です。

◎ それでは、航空事業について、詳細をご説明いたします。

◎ 10ページをご覧ください。

航空事業

収入・費用		単位: 億円 (¥100Million)	前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年差 Difference
売上高 Operating Revenues	国内線旅客	Domestic Passengers	1,473	1,483	+ 9
	国際線旅客	International Passengers	895	1,092	+ 197
	貨物郵便	Cargo and Mail	337	392	+ 54
	その他	Others	349	382	+ 33
	合計	Total	3,055	3,351	+296
営業費用 Operating Expenses	燃油費・燃料税	Fuel and Fuel Tax	800	899	+ 98
	空港使用料	Landing and Navigation Fees	262	278	+ 15
	航空機材賃借費	Aircraft Leasing Fees	186	220	+ 34
	減価償却費	Depreciation and Amortization	309	310	+ 1
	整備部品・外注費	Aircraft Maintenance	199	198	△ 0
	人件費	Personnel	423	415	△ 8
	販売費	Sales Commission and Promotion	174	236	+ 61
	外部委託費	Contracts	384	410	+ 25
	その他	Others	381	394	+ 13
	合計	Total	3,121	3,363	+ 242
営業利益	営業利益	Operating Income	△ 65	△ 11	+ 53
	EBITDA*	EBITDA	264	298	+ 34
	EBITDAマージン	EBITDA Margin (%)	8.6	8.9	+ 0.3

* EBITDA: 営業利益 + 減価償却費、休止固定資産減価償却費等を含む

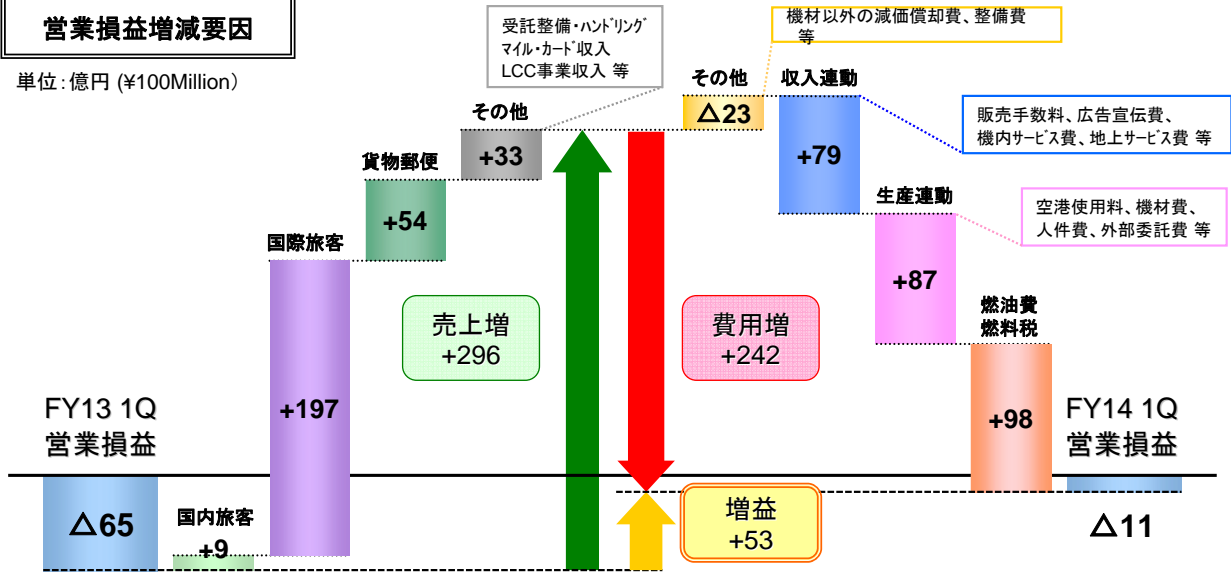
©ANAHD2014

事業上の関連性の高い航空会社に対する航空機燃料の売上取引については、P5脚注の通り、会計方針の変更が適用されています。

航空事業

営業損益増減要因

単位: 億円 (¥100Million)



コスト構造改革	年度計画	1Q実績	進捗率
生産性向上	110	25	23%
投資適正化	50	10	20%
営業改革	35	10	29%
業務改革等	145	25	17%
計	340	70	21%

事業上の関連性の高い航空会社に対する航空機燃料の売上取引については、P5脚注の通り、会計方針の変更が適用されています。

©ANAHD2014

10

- ◎ 航空事業営業損益の、前年同期比較です。
- ◎ 売上高は、296億円の増加となりました。
国際線事業の拡大に伴い、大幅な増収となっています。
- ◎ 営業費用は、事業規模拡大に伴う生産連動・収入連動費用の増加に加え、円安基調が燃油費に影響したこともあり、242億円の増加となりました。
- ◎ 以上により、営業損益は53億円改善して11億円の損失となりました。
なお、計画対比でも第1四半期の計画を上回る実績となっています。
- ◎ また、コスト構造改革については、計画通りに進捗しており、当第1四半期においては、70億円の削減を達成しています。
- ◎ 続きまして、12ページから事業別の動向をご説明します。

航空事業

国内旅客事業(実績)

		前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年比 % Y/Y
座席キロ(百万)	Available Seat Km (million)	14,909	14,839	△ 0.5
旅客キロ(百万)	Revenue Passenger Km (million)	8,495	8,788	+ 3.5
旅客数(千人)	Passengers (thousands)	9,690	9,970	+ 2.9
座席利用率(%)	Load Factor (%)	57.0	59.2	+ 2.2*
旅客収入(億円)	Passenger Revenues (¥100million)	1,473	1,483	+ 0.7
ユニットレベニュー(円)	Unit Revenue (¥/ASK)	9.9	10.0	+ 1.2
イールド(円)	Yield (¥/RPK)	17.3	16.9	△ 2.7
単価(円)	Unit Price (¥/Passenger)	15,209	14,881	△ 2.2

* 座席利用率のみ前年差

(旧エアアジア・ジャパン、パニラエア含まず)

航空事業

国内旅客事業(事業動向)

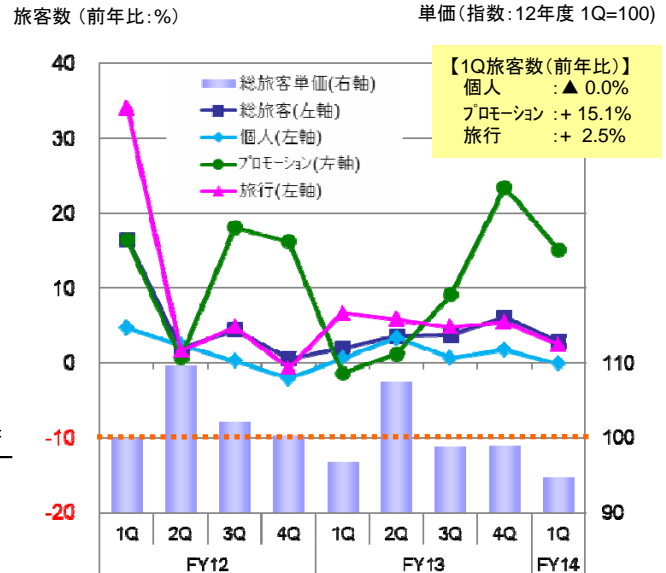
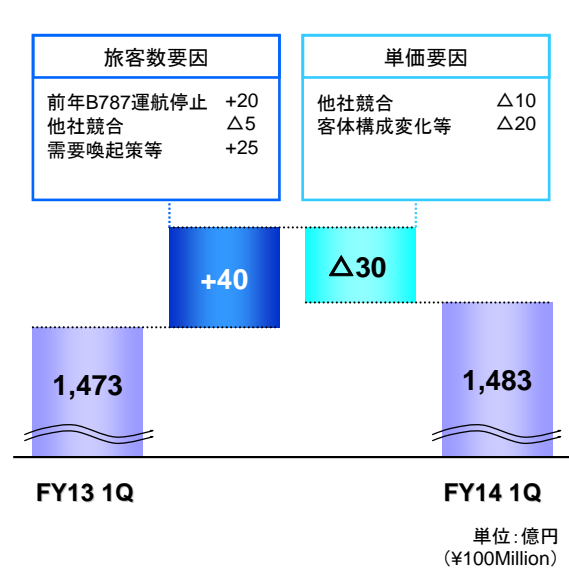
(旧エアアジア・ジャパン、パニラエアを含まず)

第1四半期 収入増減要因

四半期別 客体別 旅客数・単価推移

✓ 需要の取り込み強化により前年を上回る

✓ 積極的なプロモーション運賃の設定が奏功



©ANAHD2014

12

◎ 国内旅客の状況です。

◎ 左の図では、第1四半期の増収額、9億円を要因分解しております。

◎ 旅客数要因では、積極的にプロモーション運賃を設定することで需要の取り込みを行い、40億円の増収となりました。

◎ 単価要因では、各種運賃設定による客体構成変化等により、30億円の減収となりました。

◎ 14ページをご覧ください。

航空事業

国際旅客事業(実績)

		前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年比 % Y/Y
座席キロ(百万)	Available Seat Km (million)	9,805	12,273	+ 25.2
旅客キロ(百万)	Revenue Passenger Km (million)	6,963	8,471	+ 21.7
旅客数(千人)	Passengers (thousands)	1,436	1,689	+ 17.7
座席利用率(%)	Load Factor (%)	71.0	69.0	△ 2.0*
旅客収入(億円)	Passenger Revenues (¥100million)	895	1,092	+ 22.1
ユニットレベニュー(円)	Unit Revenue (¥/ASK)	9.1	8.9	△ 2.5
イールド(円)	Yield (¥/RPK)	12.9	12.9	+ 0.3
単価(円)	Unit Price (¥/Passenger)	62,334	64,663	+ 3.7

* 座席利用率のみ前年差

(旧エアアジア・ジャパン、パニラエア含まず)

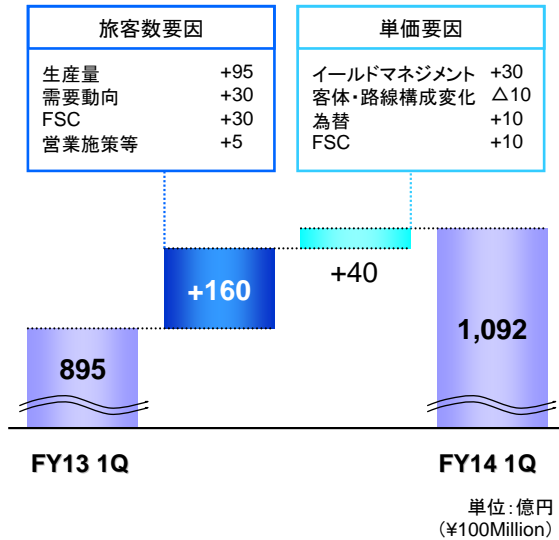
航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(旧エアアジア・ジャパン、パニラエアを含まず)

第1四半期 収入増減要因

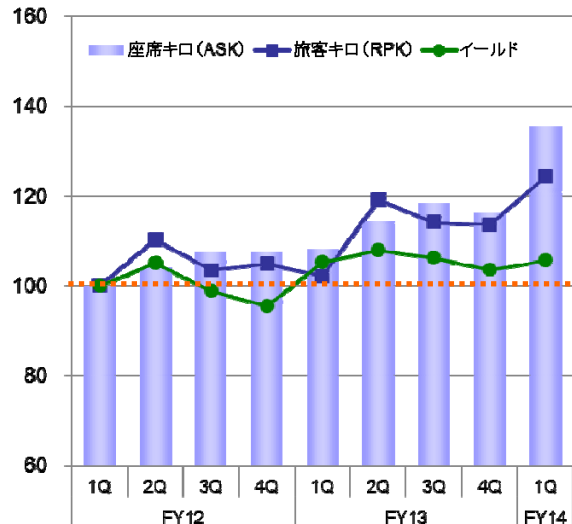
✓ 事業規模の拡大を着実に増収に結実



四半期別 座席キロ・旅客キロ・イールド推移

✓ 需要取り込みの拡大とイールド維持・向上を両立

指数: 12年度 1Q=100



©ANAHD2014

14

◎ 国際旅客の状況です。左の図をご覧ください。

◎ 旅客数要因では、生産量の拡大を着実な需要獲得に結び付け、
160億円の増収となりました。

◎ 単価要因でも、40億円の増収となり、合計で197億円の増収となりました。

◎ 国際線発着枠の拡大を契機に、
他社を含めた首都圏全体の供給量が増加するなかでも、
イールドマネジメントを徹底してきました。
結果、単価は前年比で約4%向上しています。

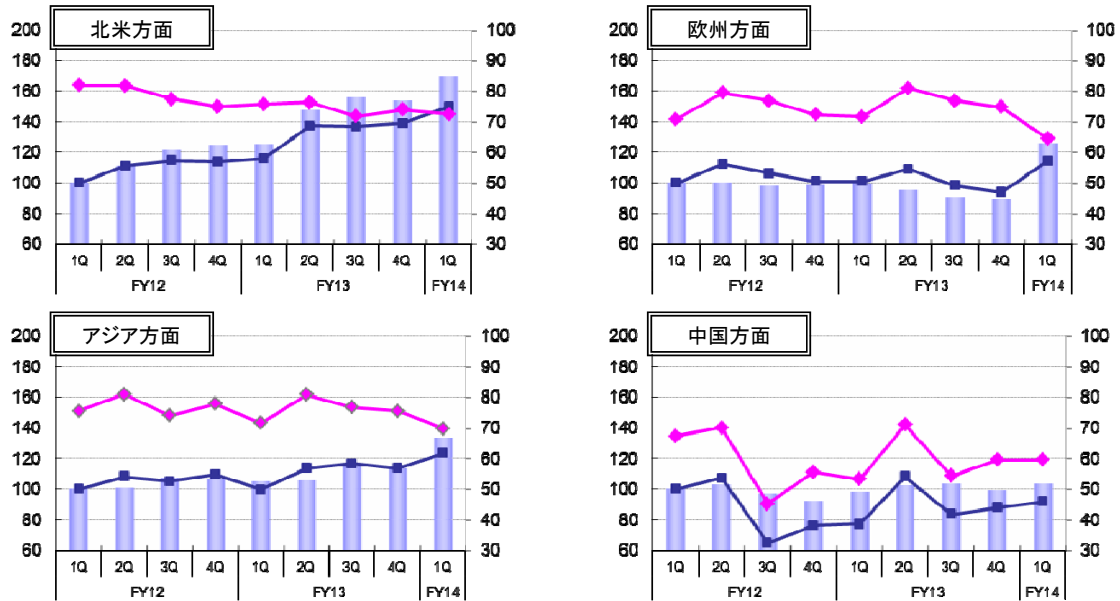
◎ 15ページをご覧ください。

航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(旧エアアジア・ジャパン、パニラエアを含まず)

四半期別 方面別 輸送実績推移



©ANAHD2014 左軸(指数 FY12 1Q=100) ASK RPK 右軸(単位:%) L/F

15

◎ 方面別の輸送実績推移です。

◎ 北米方面では、徐々に生産量を拡大しつつも、
着実に需要の取り込みを行ってまいりました。
3月からは、羽田空港から新たにバンクーバー線を開設しています。

◎ 中国方面については、訪日需要の拡大という追い風もあり、
需要は尖閣諸島問題が発生する前の水準に戻っています。

◎ 欧州方面、並びにアジア方面につきましては、次のページで
詳細をご説明します。

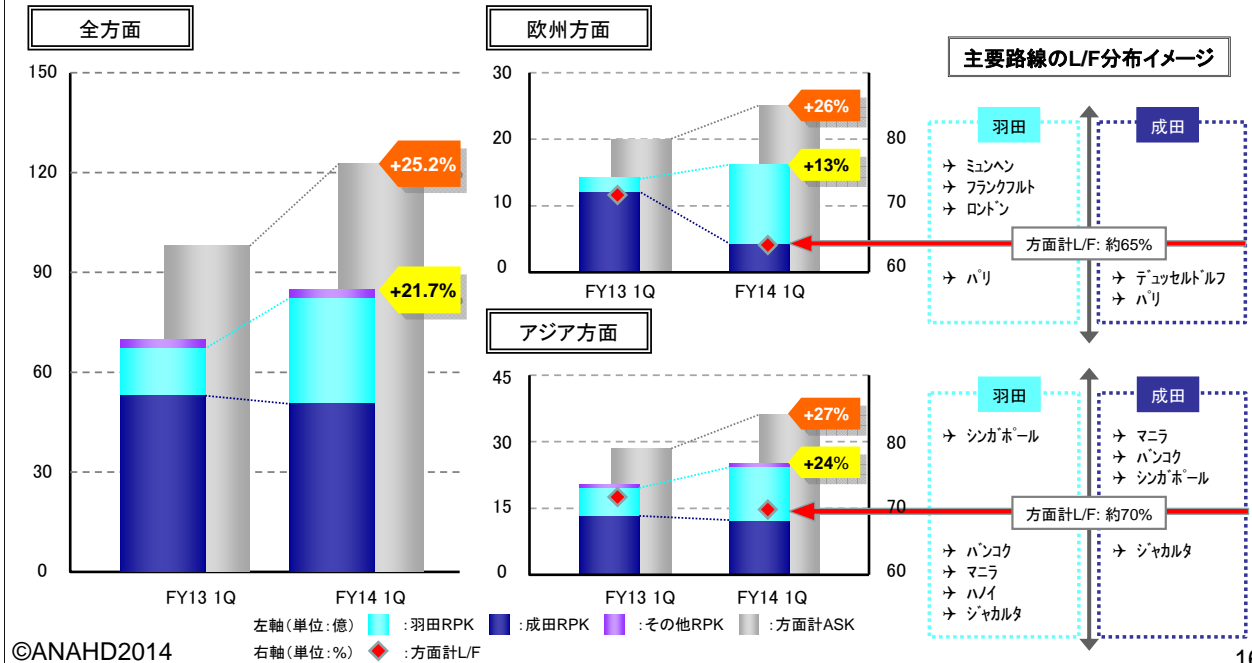
◎ 16ページをご覧ください。

航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(旧エアアジア・ジャパン、パニラエアを含まず)

空港別 輸送実績の前年同期比較



16

◎ 本ページのグラフは、第1四半期の実績を前年同期と比較したものです。旅客キロについては、羽田空港発着便を水色、成田空港発着便を紺色、座席キロについては、各方面の合計を背景の灰色にてお示ししています。

◎ 欧州方面、並びにアジア方面では、引き続き好調な路線がある一方、新規路線の一部については、国内外のマーケットへの浸透を図っている途上にあります。事業規模の拡大に対して、まだ需要の取り込みが十分とは言えない状況ですが、課題については把握・分析済みであり、既に対策を講じ始めています。

◎ 以上が第1四半期における方面別の特徴ですが、国際線全体で見れば、計画を上回る実績となりました。

◎ 第2四半期は年間で最も需要が高まるため、ネットワーク拡大の効果を着実に増収につなげてまいります。

◎ 続きまして、20ページをご覧ください。

航空事業

国内貨物事業(実績)

		前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年比 % Y/Y	
国内貨物 Domestic Cargo	有効貨物トンキロ(百万)	Available Ton Km (million)	472	462	△ 2.1
	有償貨物トンキロ(百万)	Revenue Ton Km (million)	101	111	+ 10.1
	貨物輸送重量(千トン)	Revenue Ton (thousand tons)	101	110	+ 8.6
	貨物重量利用率(%)	Load Factor (%)	21.5	24.2	+ 2.7*
	貨物収入(億円)	Cargo Revenues (¥100million)	71	76	+ 7.4
	ユニットレベニュー(円)	Unit Revenue (¥/ATK)	15.1	16.6	+ 9.6
	重量単価(円/kg)	Unit Price (¥/kg)	70	70	△ 1.2
	【参考】 上記内数 国内 フレイター Domestic Freighter	有効貨物トンキロ(百万)	Available Ton Km (million)	7	—
有償貨物トンキロ(百万)		Revenue Ton Km (million)	2	—	—
貨物輸送重量(千トン)		Revenue Ton (thousand tons)	2	—	—
貨物重量利用率(%)		Load Factor (%)	31.2	—	—
貨物収入(億円)		Cargo Revenues (¥100million)	3	—	—
ユニットレベニュー(円)		Unit Revenue (¥/ATK)	42.4	—	—
重量単価(円/kg)		Unit Price (¥/kg)	129	—	—

* 貨物重量利用率のみ前年差

Intentionally Blank

航空事業

国際貨物事業(実績)

		前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年比 % Y/Y	
国際貨物 International Cargo	有効貨物トンキロ(百万)	Available Ton Km (million)	1,025	1,343	+ 31.1
	有償貨物トンキロ(百万)	Revenue Ton Km (million)	666	891	+ 33.8
	貨物輸送重量(千トン)	Revenue Ton (thousand tons)	162	212	+ 30.6
	貨物重量利用率(%)	Load Factor (%)	65.0	66.4	+ 1.3*
	貨物収入(億円)	Cargo Revenues (¥100million)	245	293	+ 19.6
	ユニットレベニュー(円)	Unit Revenue (¥/ATK)	23.9	21.8	△ 8.8
	重量単価(円/kg)	Unit Price (¥/kg)	151	138	△ 8.4
	【参考】 上記内数 国際 フレイター International Freighter	有効貨物トンキロ(百万)	Available Ton Km (million)	215	296
有償貨物トンキロ(百万)		Revenue Ton Km (million)	131	186	+ 41.4
貨物輸送重量(千トン)		Revenue Ton (thousand tons)	74	96	+ 29.5
貨物重量利用率(%)		Load Factor (%)	61.2	62.9	+ 1.7*
貨物収入(億円)		Cargo Revenues (¥100million)	90	111	+ 22.8
ユニットレベニュー(円)		Unit Revenue (¥/ATK)	42.1	37.6	△ 10.8
重量単価(円/kg)		Unit Price (¥/kg)	122	116	△ 5.1

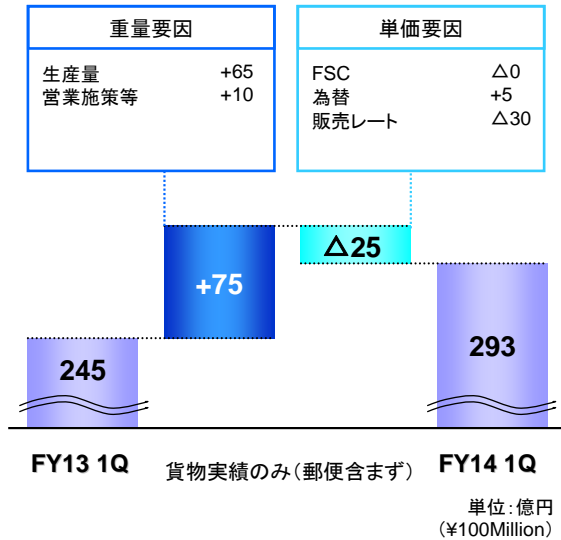
* 貨物重量利用率のみ前年差

航空事業

国際貨物事業(事業動向)

第1四半期 収入増減要因

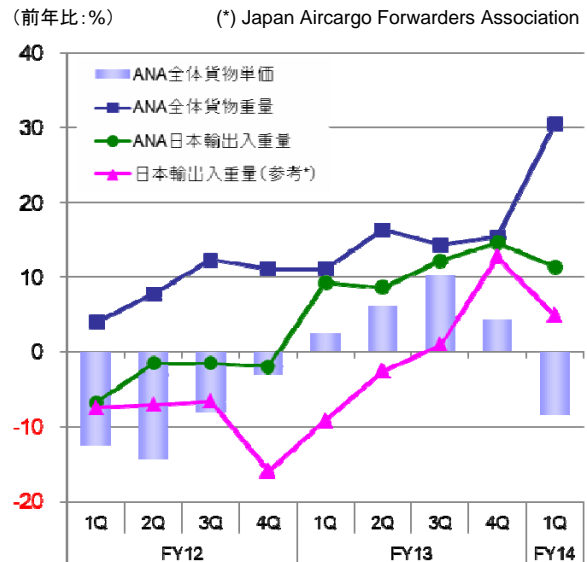
✓ 積極的に三国間流動需要の取り込みを図り増収



©ANAHD2014

四半期別 輸送実績・単価推移

✓ 市場トレンドを上回る需要取り込みを継続



20

◎ 国際線貨物の状況です。左の図をご覧ください。

◎ 重量要因では、事業規模拡大を需要獲得に結び付け、75億円の増収となりました。

◎ 単価要因では、三国間流動需要の取り込みを積極的に推し進めたこと等により、25億円の減収でしたが、合計では48億円の増収となっています。

◎ なお、21ページにバニラエアの事業概況を、22ページに航空事業以外の各報告セグメントの状況をお示しておりますのでご参照ください。

◎ 以上で、私からの説明を終わらせて頂きます。
ありがとうございました。

航空事業

LCC事業(実績)

国内線・国際線合計		前年同期* 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年比 % Y/Y
座席キロ(百万)	Available Seat Km (million)	360	495	+ 37.5
旅客キロ(百万)	Revenue Passenger Km (million)	197	296	+ 50.3
旅客数(千人)	Passengers (thousands)	184	198	+ 7.3
座席利用率(%)	Load Factor (%)	54.7	59.7	+ 5.1**

*旧エアアジア・ジャパンとしての実績

**座席利用率のみ前年差

機材計画	運用機材: 6機 (2014年6月末時点) 14年度末: 8機 15年度中に10機程度
------	--

→ 成田=奄美大島線就航(2014/7/1~)

→ ANAマイレージ会員向け、「バニラエア特典航空券」サービス受付開始(2014/7/1~)



航空事業以外のセグメント

セグメント別実績

単位: 億円 (¥100Million)		航空関連事業			旅行事業		
		前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年差 Difference	前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年差 Difference
売上高	Revenues	457	536	+ 78	363	367	+ 3
営業利益	Op. Income	12	27	+ 15	6	7	+ 1
減価償却費	Depreciation and Amortization	7	10	+ 3	0	0	△ 0
EBITDA*	EBITDA	19	38	+ 18	6	7	+ 1
EBITDAマージン	EBITDA Margin (%)	4.3	7.2	+ 2.9	1.7	2.1	+ 0.4

単位: 億円 (¥100Million)		商社事業			その他		
		前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年差 Difference	前年同期 1Q/FY13	第1四半期 1Q/FY14	前年差 Difference
売上高	Revenues	264	300	+ 35	70	75	+ 5
営業利益	Op. Income	7	5	△ 2	1	1	+ 0
減価償却費	Depreciation and Amortization	1	2	+ 0	0	0	△ 0
EBITDA*	EBITDA	9	7	△ 1	1	2	+ 0
EBITDAマージン	EBITDA Margin (%)	3.6	2.5	△ 1.1	2.6	3.1	+ 0.5

補足資料

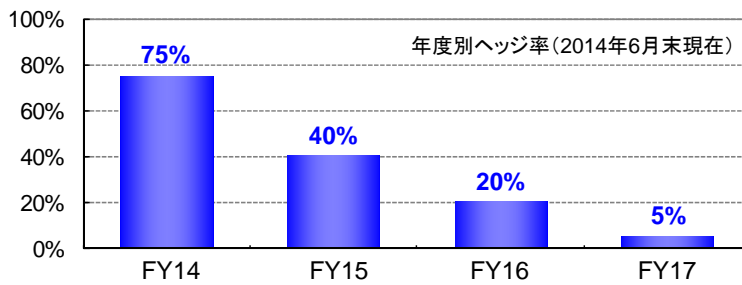


補足資料

燃油

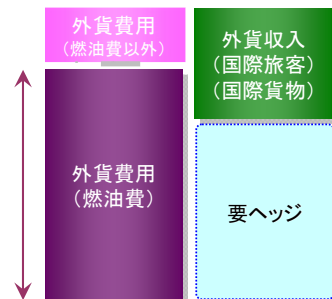
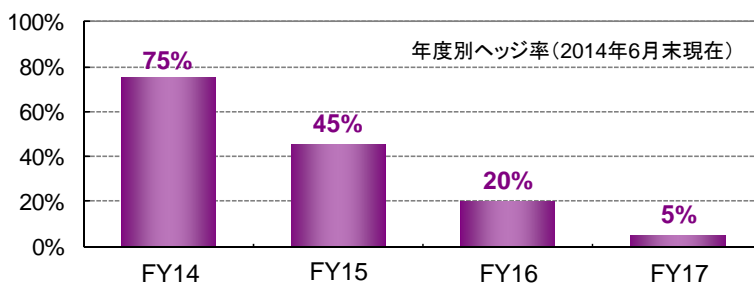
《2014年度業績予想前提値》
 ドバイ原油: US\$107/bbl、シンガポールケロシン: US\$125/bbl

(下記感応度はヘッジ効果を含まず)



為替

《2014年度業績予想前提値》 US\$:105円/\$



補足資料

国際旅客 方面別実績(構成比)

		第1四半期構成比 1Q/FY14 Composition	前年差 Difference	
旅客収入 Revenue	北米	North America	33.3	+ 2.3
	欧州	Europe	20.7	△ 0.5
	中国	China	14.7	△ 0.8
	アジア	Asia	27.7	△ 0.4
	リゾート	Resort	3.5	△ 0.7
座席キロ ASK	北米	North America	35.0	+ 2.6
	欧州	Europe	20.5	+ 0.2
	中国	China	11.2	△ 2.0
	アジア	Asia	29.4	+ 0.4
	リゾート	Resort	3.9	△ 1.1
旅客キロ RPK	北米	North America	36.7	+ 2.2
	欧州	Europe	19.1	△ 1.4
	中国	China	9.7	△ 0.2
	アジア	Asia	29.8	+ 0.5
	リゾート	Resort	4.7	△ 1.0

補足資料

国際貨物 方面別実績(構成比)

		第1四半期構成比 1Q/FY14 Composition	前年差 Difference	
貨物収入 Revenue	北米	North America	21.4	+ 0.4
	欧州	Europe	15.0	+ 0.2
	中国	China	34.4	△ 2.5
	アジア	Asia	21.9	+ 2.0
	その他	Others	7.2	△ 0.2
有効貨物 トンキロ ATK	北米	North America	35.2	△ 0.6
	欧州	Europe	21.0	△ 2.1
	中国	China	16.4	△ 1.4
	アジア	Asia	23.4	+ 4.2
	その他	Others	4.0	△ 0.2
有償貨物 トンキロ RTK	北米	North America	38.8	+ 1.2
	欧州	Europe	23.7	△ 0.9
	中国	China	13.6	△ 2.4
	アジア	Asia	19.6	+ 2.0
	その他	Others	4.3	+ 0.1

補足資料

運用航空機数		前年度期末 Mar 31, 2014	第1四半期末 Jun 30, 2014	増減 Change	保有機数 Owned	リース機数 Leased
大型機 Wide-Body	Boeing 747-400 (Domestic)	1	0	△ 1	0	0
	Boeing 777-300ER	19	19	—	16	3
	Boeing 777-300	7	7	—	7	0
	Boeing 777-200ER	12	12	—	6	6
	Boeing 777-200	16	16	—	14	2
中型機 Mid-Body	Boeing 787-8	27	28	+ 1	28	0
	Boeing 767-300ER	26	26	—	7	19
	Boeing 767-300	21	21	—	21	0
	Boeing 767-300F	2	3	+ 1	0	3
	Boeing 767-300BCF	7	7	—	7	0
小型機 Narrow-Body	Airbus A320-200	19	19	—	16	3
	Boeing 737-800	24	26	+ 2	23	3
	Boeing 737-700ER	2	2	—	2	0
	Boeing 737-700	11	11	—	8	3
	Boeing 737-500	15	16	+ 1	16	0
リージョナル機 Regional	Bombardier DHC-8-400 (Q400)	21	21	—	12	9
	Bombardier DHC-8-300 (Q300)	1	0	△ 1	0	0
合計 Total		231	234	+ 3	183	51

©ANAHD2014

パニラエア運用 A320-200 6機を含む
2014年6月末現在、グループ外にリースしている機数を除く（当期末 13機、前年度期末 14機）

27

(MEMO)

(MEMO)

(MEMO)

ANAグループが目指すもの

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に
世界をつなぐ心の翼で
夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます
私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、
お客様満足と価値創造で
世界のリーディングエアライングループを目指します

免責事項

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

ご清聴ありがとうございました。

Thank you.

当資料はホームページでもご覧いただけます。

This material is available on our website.

<http://www.anahd.co.jp>

[日本語] 株主・投資家情報 → IR資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス株式会社 財務企画・IR部
電話番号 03(6735)1030(代) メールアドレス ir@anahd.co.jp